●子どもたちは何を感じたのか❶

「命」に対する考え変わった生きられなかった人の分まで

南方中３年
星　朋日（ともか）さん
（当時：南方小６年）

南三陸町の様子に衝撃受ける 祖父母の安否に緊張と不安が

「グォーゴォゴゴゴゴ…ドンッ」。その時起きたことは、一生忘れることはありません。私はまだ小学６年生でした。

帰りの会が終わり、友達と一緒に階段を降りようと思ったその時、今まで経験したことのない揺れに襲われました。階段が激しく揺れ、まともに立っていられない状況の中、たくさんの人の悲鳴が聞こえ、一瞬のうちに恐怖と不安でいっぱいになりました。母に迎えに来てもらい無事に帰宅することができました。

母の携帯電話で南三陸町の様子を見た私は衝撃を受けました。まるで高い壁のように濁った水が、木や車、たくさんの建物、土手の上の線路までも飲み込んでいたのです。私は、すぐに祖父母が無事なのか心配になりました。南三陸町には、私の祖父母が住んでいたからです。

次の日、私は祖父母の無事を確かめるため、家族と南三陸町へ向かいました。途中、緊張と不安で胸が押しつぶされそうでした。息をするのもひどく、苦しくてたまりませんでした。「とにかく無事でいて」。その一心でした。

失われたたくさんの「命」 生と死を分けたものは何か

南三陸町に入った途端、私は涙が止まりませんでした。町にあった建物は消え、あるのは原形をとどめていないほどぐちゃぐちゃになった車、どこから来たのか分からない家の屋根、たくさんのがれきが町を埋め尽くしていました。道路があった場所も線路があった場所もどこがどこだか分りませんでした。言葉にできないくらい悲しかったのを覚えています。

私は、とにかく祖父母の家のある場所へ急ぎました。何とか無事でいてほしいと強く願いながら、がれきの中を進みました。思いが届いたのか、祖父母は無事でした。無事を確認したとき、言葉では言い表せないほどの安心と喜びを感じました。私はすぐに走り寄り、自分の思いを伝えました。無事で良かったこと、また会えてうれしかったこと、迎えに来たということ、泣きたいのを抑え必死で伝えました。

私はこの震災で、「命」というものについて考えました。生と死を分けたものは何だったのか、私にはよく分かりません。ただ、たくさんの尊い命が失われたのは事実です。逃げ遅れてしまった人、津波に気付かなかった人、まだ生まれて間もない小さな命もありました。

地震さえこなければ生きていられた人たち。この人たちのことを思うと、自分の命に対する考えが、これまでとは全く違うものになりました。「粗末にしてはいけない」「一生懸命生きなければ」という思いが、一層強くなりました。そして、家族を亡くした人の悲しむ姿を見て、自分だけの命ではないことも知りました。「命」は何よりも重く、尊いものです。

私は自分の命も他人の命も大切にし、突然命を絶たれて生きられなかった人の分まで、精一杯生きたいと思いました。

6千人余りが避難 沿岸被災地も支援

震災直後、市民のための避難所を市内の公共施設など53カ所に開設。ピーク時（３月14日）の避難者は6,230人に上りました。津波の被害を受けた南三陸町など、隣接する沿岸被災者の受け入れ態勢も直後に整えました。市内に延べ11の避難所を開設。ピーク時には南三陸町や石巻市、女川町の住民833人が生活しました。南三陸町を支援するため、市内各種団体と協力し「南三陸物資輸送ボランティア」を立ち上げ、南三陸町の災害対策本部（ベイサイドアリーナ）に保管されている支援物資を、町内の主たる避難所に輸送しました。

▲南三陸町での支援物資の整理

●子どもたちは何を感じたのか❷

普通に生活できることが幸せ 一日も早く元の暮らしに

津山中１年
亀井　梨帆（りほ）さん
（当時：柳津小４年）

床をはうように校庭に逃げる 寒さと余震、不安に涙が出た

３月11日、体育館で卒業式の準備をしていたら、先生が、「地震だ」と言いました。「えっ、地震」。みんな作業の手を止めてぼおっとしていたら、ゴォーという地鳴りが聞こえてきて、下から突き上げるように、床がガタガタと揺れ始めました。

「きゃあ」。天井の鉄骨がバキバキと音を立て、ライトが今にも落ちてきそうです。私たちは、頭を手で抱えしゃがみ込みました。先生が、「逃げろ」と叫びました。私たちは床をはうように歩きながら、外に逃げました。

校庭に出てからも地面が大きく揺れ、真っ直ぐに歩けません。やっとの思いで校庭の端の方まで逃げ、みんなで寄り添いながら地面にしゃがみ込みました。

停電になり、怖くて泣いていた友達もいました。他の学年も昇降口や非常階段から逃げてきました。なかなか逃げられない学年もありました。校舎がぐらぐら揺れて、崩れるんじゃないかとはらはらしました。先生方が校庭から「逃げろ」と叫んでいました。

地震は今までにないくらい、ぐらぐらと大きく長く揺れました。近所の家

あの震災を 特集 忘れない